



ザ・ヒロサワ・シティ、広沢商事2階講堂にて。2023年11月10日（撮影／田中光一）

「歴史的鉄道車両の修復・保存・管理への挑戦」

日本鉄道保存協会事務局長 米山淳一

2023年度日本鉄道保存協会総会・見学会を昨年11月10・11日の2日間にわたって、当協会の正会員である「ザ・ヒロサワ・シティ」で開催し、全国各地から約80名が集いました。ザ・ヒロサワ・シティは、名峰・筑波山を望む茨城県筑西市にあって、「自然・健康・文化」をテーマとした敷地面積100万㎡のテーマパーク。パーク内に開園準備中の乗り物をメインにした「ユメノバ」を利用していただいていたの開催でした（※ユメノバは令和6年2月11日にオープン）。宿泊も保存展示してある北斗星の車両やコテージで、総会・交流会・見学会すべてのプログラムがザ・ヒロサワ・シティ内でおこなわれました。

総会、開催地報告につづいて行われたシンポジウムの今年のテーマは「歴史的鉄道車両の修復・保存・管理への挑戦」でした。大切な歴史的鉄道車両を末永くケアして行くための重大関心事です。そこで今回は、実際にこの問題に直面している会員のみなさんにご登壇いただきました。

基調講演は手嶋康人さん（北九州線車輛保存会）にお願いし、「難物PCB、アスベストの処理と対策」と題した熱のこもったお話しに、会場から大きな拍手がわきました。手嶋さんは、西鉄北九州線の車輛をはじめ、多くの車輛の修理や保存を手掛けている達人で、自分たちの体験から得た方策を披

露されました。また手嶋さんはアスベストの処理に関し特別技術保持者に登録されているとのことで、心強いお話しとなりました。

講演につづいて、小樽総合博物館の佐藤卓司さんからED75 501、ED76 509のPCBとアスベストの処理について、小坂鉄道保存会の亀沢修さんから24系ブルートレインなどの修繕資金をクラウドファンディングで募る修理財源確保の現状について、また碓氷峠交流記念財団事務局長の小崎正人さんからは館内にある多数の保存車両のメンテナンスにかかる経費の増大への懸念、さらに技術伝承の難しさなどについて、それぞれお話ししていただきました。

これを受けてコーディネーターの大島登志彦さん（当協会顧問・高崎経済大学名誉教授）が会場からの意見を吸い上げ、みなさんとのディスカッションを展開し、歴史的車両の修理や保存活用に終わりはないので、直面してからではなく、日頃から責任をもって接してゆくべきであり、保存協会仲間の連携を密にし、みんなで協力しあってゆくことが大事であると結んでいただきました。

今後もソフト、ハードとも欧米並みの保存活動にまい進していきましょう。

2023年度ザ・ヒロサワ・シティ(筑西市) 総会・見学会開催報告

1日目の総会は、花上嘉成顧問の開会挨拶に始まり、事務局長の米山淳一から2023年度事業、決算が報告され、真岡線SL運行協議会の間宵嘉明さんの監査報告があり、つづいて2024年度の事業計画、収支予算計画、次期開催地などが発表されました。議事は順調に進められ、全会一致で承認を受けました。

総会後は、開催地報告として、ザ・ヒロサワ・シティの広沢商事株式会社専務取締役の野口稔人さんから「自然・健康・文化の郷(まち)づくり、ザ・ヒロサワ・シティ」の活動についてと、筑西市職員による観光宣伝を含めた街の紹介がありました。終了後、交流会にうつり、会員のみなさんのたくさんの笑顔がみられました。

2日目はオープン前の「陸・海・空・宇宙」テーマパーク「ユメノバ」をご案内頂き、駅弁発祥の駅のひとつ宇都宮駅の駅弁をいただいて解散となりました。参加者の中には、近隣にある会員の真岡鐵道(真岡線SL運行協議会)を訪ねた方もいらしたようです。

※交流会のあと、北斗星車両の食堂車、ロビーカーで2次会が行われ、記念写真を撮り忘れるほど盛り上がり、参加者のみなさんには大満足していただきました。

■スケジュール

■11月10日(金)

13:30 集合 広沢商事 1階受付開始

14:00 総会開始

主催者挨拶/日本鉄道保存協会顧問 花上嘉成
代表幹事団体挨拶/公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事 米山淳一

15:30 開催地報告(1)

「自然・健康・文化の郷(まち)づくり ザ・ヒロサワ・シティ」
広沢商事株式会社専務取締役 野口稔夫



▲消防自動車博物館



▲科博廣澤航空博物館内部



▲レールパークに並ぶ保存車両たち



▲北九州車輛保存会の手嶋康人代表の基調講演

▲小坂鉄道保存会の亀沢 修 総務企画局長の事例発表



▲11月10日、総会・シンポジウム会場風景。修理保存の実態について熱心に耳を傾ける参加者



▲交流会であいさつする米山事務局長

開催地報告(2)

「茨城県筑西市の紹介」

筑西市役所土木部都市整備課主任 大門智子

16:15 シンポジウム「歴史的鉄道車両の修復・保存・管理への挑戦」

基調講演「難物PCB、アスベストの処理と対策」

北九州線車輛保存会 手嶋康人

●パネリスト

小樽総合博物館学芸員/佐藤卓司

小坂鉄道保存会総務企画局長/亀沢 修

碓氷峠交流記念財財団事務局/小崎正人

●コーディネーター

日本鉄道保存協会顧問・高崎経済大学名誉教授

大島登志彦

17:15 総括・閉会挨拶 記念撮影

18:00 交流会

■11月11日(土)

9:00 『ユメノバ』見学会開始

11:30 昼食(昼食後、自由解散)

修復・保存・管理——事例発表のその後

2023年度の総会シンポジウムで基調講演をして頂いた手嶋さんと、事例発表をしていただいた3団体に、その後の報告を寄稿していただきました。

『保存鉄道における石綿について』 北九州線車輛保存会代表 石綿含有建材調査者 手嶋康人

近年、私達、保存鉄道に関わるニュースで石綿(アスベスト)の問題を多く見聞きするようになりました。鉄道に使われる石綿は製造時の含有や改造時に使われることも多く、どこで使用されているかが明確になっていない為、古い車輛は一律に石綿を含有するとみなし、保存を断念し解体する事例が多く見られました。

昨年2023年10月より解体作業に石綿含有建材調査者による事前調査が義務化されました。石綿みなし含有で解体作業を行うことは出来ず、解体予定車輛を部材一個まで調査し、石綿の含有と処理方法を報告書に記載しなければならなくなりました。より厳しい規制が行われる半面、調査によって処理が簡易なもので終わらせることが出来るようになった事例も存在します。石綿は大変危険な素材ですが、過度な恐れを抱く必要はなく、処理方法は法律に基づいて厳密に定められており、有資格者による調査と除去作業を行えば安全に処理することが出来ます。昨年の総会で発表させて頂いた内容が皆様へ届き、一両でも多くの保存車輛を残すことが出来る一助となれば幸いです。



▲アスベスト除去作業中

『ED75 501・ED76 509のその後』 小樽市総合博物館学芸員 佐藤卓司

シンポジウムではパネリストとして「小樽市総合博物館の鉄道車両の保存・管理について」と題して当館の抱える現状や課題をみなさまに聞いてもらえる機会を与えていただき感謝いたします。その後、問合せや視察依頼などの連絡もあり会員間の連携をつくっていければと思います。

事例報告でのPCBとアスベスト処理の経過・除去に該当した電気機関車2両(ED75 501・ED76 509)について、これからの予定を報告します。

当初車体は処理作業を行うため解体廃棄と業者から言われていましたが、作業を進めていく中で保存の可能性が見え、ED75の外殻とED76の前頭部が残りました。令和6年度はED76の展示施設整備とデジタルコンテンツ制作、ED75は次年度以降に展示整備を進める予定です。整備業務については7月中旬の開始を目標にクラウドファンディングを実施しますので、どうぞ皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



▲展示整備を待つED76の前頭部

『ブルートレインあけぼの』 小坂鉄道保存会総務企画局長 亀沢 修

昨年報告させて頂いた「ブルートレインあけぼの」(24系客車) 宿泊営業再開に向けたガバメントクラウドファンディングは、寄付金額があっという間に目標の350万円を突破して24系客車修繕費用分を確保。その後は「キハ2101」の修繕を目標としたセカンドステージに入り、最終的には607万円を超えて全国から多くの関心を集めることにもつながりました。

また、ふるさと納税を活用した優良な事例を紹介する「ふるさとチョイスアワード2023」チョイスルーキー部門では、小坂町が大賞を受賞するという快挙も達成。審査員からは「デジタルメディアが地域振興や文化遺産保存に果たす役割の大きさを示す事例」と高い評価を受けました。とはいえ、本当の評価を受けるのはこれからです。皆様のお気持ちに応えるべく、小坂鉄道保存会は車両の整備を進めてレールパークの認知度と魅力度アップに貢献してまいります。最後になりましたが、当協会会員をはじめご支援いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。



▲美しく生まれ変わったブルートレインあけぼの

『高濃度PCBの処理とその後』 碓氷峠交流記念財団事務局長 小崎正人

昨年の総会時にお話しさせて頂いた「高濃度PCB」の処理については、無事運び出しが完了いたしました。低濃度PCBが使用されていると考えられる動態保存機「EF63形電気機関車」4両については、低濃度PCBを使用していない機器に置き換えが可能かどうか調査中です。車両も古くなり代替部品も乏しく、思うように進まないのが現状です。

屋外展示車両の修繕について、令和5年度は2両が業者に依頼しての修繕となりました。この度、189系あさま号の国鉄色が修繕完了となり、碓氷峠鉄道文化むらの顔として多くのお客様にご覧いただいております。

一般財団法人碓氷峠交流記念財団は碓氷峠鉄道文化むら・峠の湯・くつろぎの郷コーナーの3施設を安中市より指定管理者として運営していましたが、令和6年4月1日より碓氷峠鉄道文化むらのみを管理・運営することとなりました。碓氷峠の歴史と鉄道について後世に伝えるため、また展示車両保存のため、より一層の努力をして参ります。



▲国鉄色修繕が完了した189系あさま

REPORT ① 参加報告

第1回全国森林鉄道サミット in 高知

昨年2023年11月3・4日に高知県中芸地域で開催された第1回全国森林鉄道サミットに参加してきた。全国各地に根付いた森林鉄道が姿を消して久しいが、日本鉄道保存協会に加盟する森林鉄道に関連した団体は、丸瀬布いこいの森(北海道遠軽町)、NPO法人オホーツク鉄道歴史保存会(北海道北見市)、赤沢森林鉄道(長野県上松町)、魚梁瀬森林鉄道(高知県馬路村)である。

3日は馬路村「うまなび」会場で「森林鉄道の保存活用」や「イギリスの事例」などの講演会、4日は田野町イベントホール会場にて、日本遺産にも認定された中芸地区*の森林鉄道群を歴史・文化・観光資源の視点から見つめ直した演劇や講演、パネルディスカッションが行われた。森林鉄道の保存活用に関心を示す方々が約40名参加され盛会だった。

主催者を代表して清岡博基氏(中芸地域森林鉄道遺産を保存・活用する会代表)が挨拶されたが、地域を挙げて森林鉄道を観光まちづくりに生かす取り組みに触れて、感動した。

(米山淳一)

*中芸地域(奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)は、かつて林業が盛んで西日本最大の森林鉄道がはりめぐらされ木材を運んでいた。現在は林業にかわってゆず栽培がさかんになり、森林鉄道の軌道は「ゆずロード」として生まれ変わっている。かつて活躍した森林鉄道、これらの隧道や橋梁などの多くは鉄道遺産として国指定重要文化財に指定されている。



▲馬路森林鉄道
▲旧魚梁瀬森林鉄道施設五味隧道
▼五味隧道はじめ多くの鉄道遺産が国指定重要文化財に指定されている



《Information》

2024年度総会・見学会開催予告

2024年度の総会・見学会は高知県馬路村で開催予定です。昨年の総会時点では愛媛県西条市が候補でしたが、諸般の事情により馬路村での開催予定になりました。

日程は10月18・19日で、18日(金)の午後集合、総会・シンポジウム、交流会、19日(土)見学会というスケジュールの予定です。宿泊と交流会は馬路温泉になります。詳細は8月上旬

にお知らせ予定です。ぜひ前後に余裕をもって、日程を確保しておいて下さい。多くのみなさんご参加をお待ちします。

▶魚梁瀬森林鉄道



REPORT ②

「山田コレクション」報告

2023年度も高橋一宇顧問に毎月現地に訪れ管理をしていただきました。外置きの102号機の被いは2023年4月に強度なテント地に取替工事を終了しており、しばらくは安心です。秋になって建屋にハトが住み着き糞害にあいましたが、換気口4カ所に目張り、出入口にネットを張る対策をおこなっていただきました。またこの冬は、例年に比べ積雪量が少なく、雪おろしの必要がなかったそうです。



▲建物内の壁との隙間や垂線に変化なし



▲出入口にネットを設置



▲3月の積雪状況



▶4月に被いカバーを取り換えた102号機

■日本鉄道保存協会 会報 2024年6月号 編集・発行/日本鉄道保存協会
事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405 公益社団法人 横浜歴史資産調査会内
TEL・FAX/045-651-1730 MAIL/info@rpsj.jp
ホームページ <http://www.rpsj.jp/>